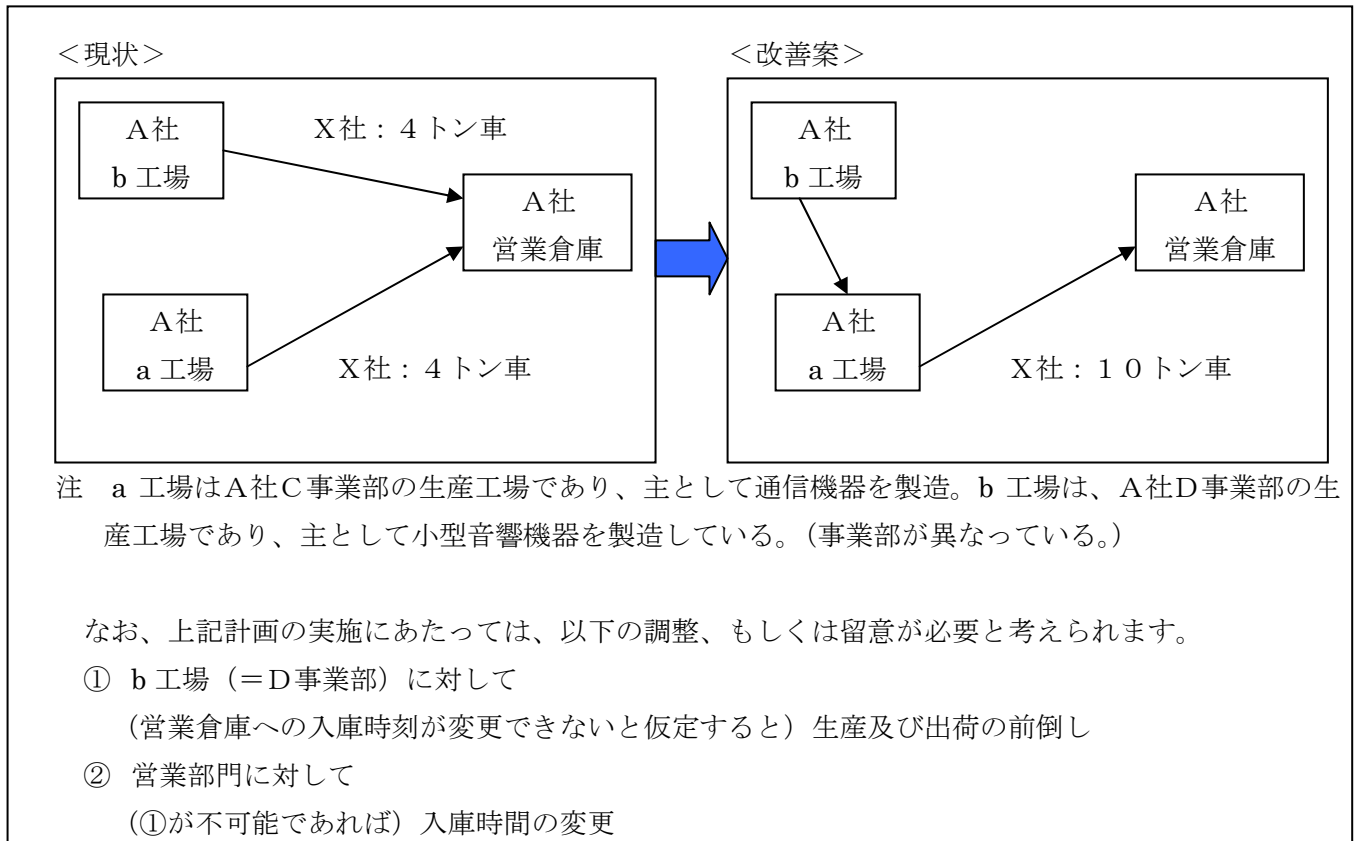


## <環境コラム> メーカーの物流部門における環境対応に必要なことは？

### 1. メーカーA社への提案

ある物流事業者X社。長年取引のあるメーカーA社の物流部門の課長から「当社は省エネ法の特定荷主には該当しなかったが、トップから環境対応を進めるよう指示が出たため、物流でも何か実施したい。そこで、CO<sub>2</sub>削減につながる提案をしてほしい。」との要請を受けました。そこで、X社では、下記計画案を、A社に提案しました。

図表1 X社が策定した削減計画（案）の概要



しかしながら、A社課長からは、「当社の主力商品である小型音響機器を製造しているD事業部に対して生産の前倒しといった要求は不可能だ。ましてや、営業部門への入庫時間の変更なんて聞き入れてくれるわけがない。もっと現実的な方策を考えてほしい。例えば、エコドライブをさらに推進していただけないか。」と言われてしまいました。

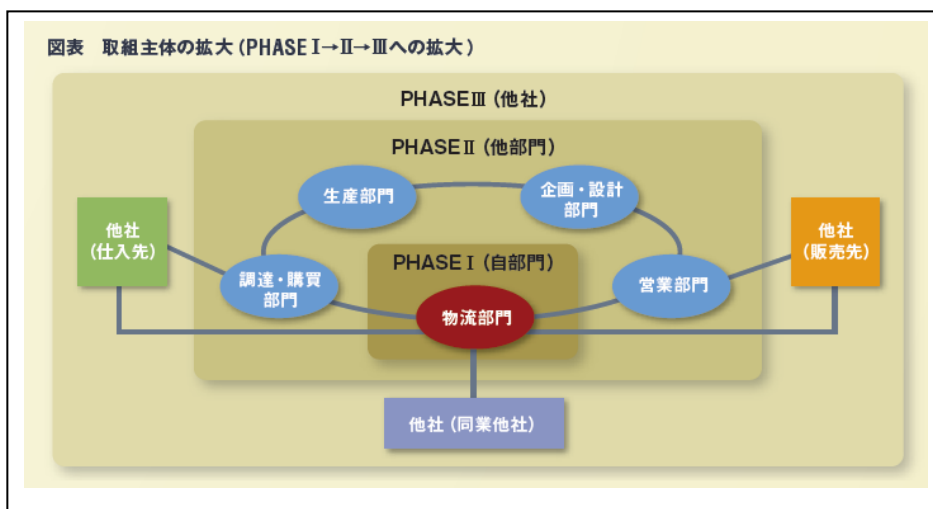
### <小コラム>エネルギー問題から考えると…

地球温暖化問題の視点から温室効果ガスの一種であるCO<sub>2</sub>削減は重要ではありますが、さらにエネルギー問題で考えますと、昨今の世界的な燃料高騰に加え、今後も発展途上国を中心にエネルギーの需要がますます増加することから、中期的に見れば需給バランスはさらに崩れる可能性も想定されます。このような状況を鑑みると、「貴重なエネルギーを有効活用する」という視点においても、荷主は無駄な輸送の削減や積載率を高めるための取組が、重要になるのではないかと考えます。

## 2. メーカーの物流部門のリーダー層に求められる能力

さて、上述のA社課長は、「事業部門（生産部門）や営業部門から指示されたとおりの作業をこなすのが物流部門の使命」との考えをお持ちだと思われます。しかしながら、物流部門における環境負荷低減を進めるためには、他部門や取引先等の他社との連携が必要であり、そのためには、物流部門から関連部門に対し、積極的な提案・発信が求められるのです（図表2）。したがって、メーカーの物流部門のリーダー層においては、それらを含めた図表3のような能力が必要だと考えられます（図表3）。

図表2 取組主体の拡大



図表3 メーカーの物流部門のリーダー層に必要な能力イメージ

- I 部分最適ではなく、他部門、他社といった広い視野で考えることができる。
- II 計画案を策定できる。
- III コストに加えて、環境負荷の定量化ができる。
- IV 他部門、他社への問題提起、対策案の発信ができる。
- V 環境関連専門知識を習得している。
- VI 計画を実践できる。

なお、X社が提案した施策は、トラック台数削減につながるため、環境負荷とともにコストの削減にもつながると考えられます。そこで、①効果を定量化する、②事業部門や営業部が本当に受け入れることができないのか、③できない理由はどのようなことなのか、④その他の代替案はないのかといったことを確認・検討した上で判断すべきだと考えられます。

## 3. 最後に

メーカーの環境方針を見ると「商品の企画・設計から部品調達、生産、物流にいたるまで地球環境負荷低減を追求」や「サプライチェーン全体での環境負荷低減」といった記載をよく目にします。トップの意向を汲み、本気で物流部門における環境負荷低減を進める上で、その推進役となるリーダー層が上記能力を身に着けているかどうか、一度確認してみてもはいかがでしょうか。

また、その能力が不十分ということであれば、ぜひJ I L Sの各種講座（グリーンロジスティクスエキスパート講座等）へのご派遣等をご検討いただければ幸いです。